

草原は特有の野生植物や昆虫のすみかであり、長野県を代表する自然景観のひとつです。

しかし、日本にみられる大部分の草原は、毎年の火入れなどの人間活動によって維持されている半自然草原です。

現在、これまでの草原と人間との関わりが急速に変化し、多くの動植物が消えようとしています。

このシンポジウムでは、霧ヶ峰をはじめとする信州の半自然草原の歴史をふりかえり、今後の草原と人間の関わり方について議論したいと考えています。



シンポジウム 信州の草原：その歴史をさぐる

2009年9月12日(土) 13:00-17:00

受付開始 12:30

片倉館 2階大広間 (長野県諏訪市)

※上諏訪駅 徒歩5分

参加費無料 / 申込み不要

挨拶 湯本貴和 (総合地球環境学研究所)

趣旨説明 須賀 丈 (長野県環境保全研究所)

講演

「阿蘇の草原と火事の歴史」

佐々木尚子 (総合地球環境学研究所)

「土壌に残された野火の歴史」

岡本 透 (森林総合研究所)

「中世の狩猟神事とその盛衰 (仮題)」

中澤克昭 (長野工業高等専門学校)

「長野県におけるニホンジカの盛衰史」

小山泰弘 (長野県林業総合センター)

主催：総合地球環境学研究所 列島プロジェクト

共催：長野県環境保全研究所



〈問い合わせ先〉 総合地球環境学研究所 第4研究室 湯本貴和 Tel: 075-707-2470 Fax: 075-707-2507

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4 E-mail: yumoto@chikyu.ac.jp http://www.chikyu.ac.jp/